

第2学年 国語科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を養う。 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。〔知識及び技能〕 (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
教科書	国語2（光村図書） 新編新しい書写1・2・3年用（東京書籍）
副教材	国語の学習 学習漢字ノート すらすら基本文法 国語便覧

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の事項について、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項（漢字、語彙、文等のきまり、表現技法等） (2)情報の扱い方に関する事項（文章や資料等の関係を理解や整理等） (3)我が国の言語文化に関する事項（伝統的な言語文化や書写等）	各単元の中で設定されている「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を通して、既習の知識や技能等を適切に活用したり、複数の知識や技能等を結び付けたりしながら、学習課題や自分なりの問いに対して、考えたり、判断したり、表現したりしている。	各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、最後まで粘り強く学習しようとしている。
・テスト（定期、単元、技能等） ※技能テスト：音読、スピーチ、書写作品等 ・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）	・テスト（定期、単元等） ・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）	・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等） ・振り返り

3 学習についてのアドバイス

学 校	・学習課題等を捉え、自分なりの問いを持ち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。 ・文章を読む際には、内容や構造等を捉え、自分の考えを深めていくようにしましょう。 ・学習の記録（ノート等）は、工夫してまとめるとともに、自分の考えや気付いたことなども書き込みましょう。
家 庭	・授業に入る前には、教材文を繰り返し読み、新しい漢字や分からない言葉を調べましょう。 ・教科書等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・自分が興味をもった本を中心に計画的に本を読むようにしましょう。 ・学校で学んだことを、ワーク・タブレット等を用いて復習し、確かな力にしましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、順序を変更することがあります。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	見えないだけ（読） アイスプラネット（読） 問いを立てながら聞く（話・聞）	- 言葉に対する感覚を磨き語彙を豊かにする。 - 登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して読む。 - 人物どうしの関係や、それぞれの考え方を読み取る。 - 筋道が通っているかどうかを考えながら聞く。
5	枕草子（読） 情報整理のレッスン/思考の視覚化（情） 多様な方法で情報を集めよう（書）	- 作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れる。 - 様々な情報を整理し、その関係を図で表す。 - 収集した情報を整理し、伝えたいことを明確にして書く。
6	クマゼミ増加の原因を探索（読） 思考のレッスン1 具体と抽象（情） 魅力的な提案をしよう（話・聞） メディアを比べよう（情） メディアの特徴を生かして情報を集めよう/ 「自分で考える時間」をもとう（情）	- 文章の構成や展開について、理解を深める。 - 文章全体と部分の関係や、文章と図表の関係に注意して読む。 - 具体と抽象の関係について理解する。 - 話の構成を工夫したり、資料などを使ったりしながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す。 - 文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の効果について理解する。
7	短歌に親しむ/短歌を味わう（読） 言葉の力（読） 読書を楽しむ/翻訳作品を読み比べよう（読書）	- 情景などを表す多様な語句に着目し、語感を磨く。 - 本や文章には、さまざまな考え方が書かれていることを知る。 - 本や文章などを通じて知りえたことを、今後の読書に生かす。
9	盆土産（読） 字のないはがき（読） 聞き上手になろう（話・聞） 表現を工夫して書こう（書） 〔推敲〕表現の効果を考える（書）	- 登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、作品に与える印象を考えたり、人柄や心情を読み取ったりする。 - 随筆の味わい方を知り、日常の読書に生かす。 - 話の展開に注意して相手の思いや考えを受け止め、質問する。 - 相手や目的に応じて、伝えたいことが伝わるよう表現を工夫する。 - 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整える。
10	モアイは語る（読） 思考のレッスン2 根拠の吟味（情） 根拠の適切さを考えて書こう（書） 〔討論〕異なる立場から考える（話・聞）	- 意見を裏づけるための、適切な根拠のあり方について理解する。 - 自分の考えと比べながら、文章の構成や論理の展開を吟味する。 - 根拠に説得力があるかどうかを吟味する。 - 自分の意見が効果的に伝わる文章を書く。 - 異なる立場を尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。
11	立場を尊重して話し合おう（話・聞） 月夜の浜辺（読） 扇的/仁和寺にある法師（読） 漢詩の風景（読）	- 立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる。 - 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 - 作品の特徴を生かし朗読し、古典の世界に親しむ。 - 古典の文章を朗読してその表現に慣れ、作品を読み味わう。 - 漢詩を朗読し、独特の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。
12	君は「最後の晩餐」を知っているか（読） 「最後の晩餐」の新しさ（読） 魅力を効果的に伝えよう（書） 研究の現場によろこ（読書）	- 文章の構成における具体と抽象の関係を理解する。 - 文章の構成や表現の効果を理解する。 - 魅力が読み手に伝わるように、表現の効果を考えて書く。 - 本や文章などを通じて知りえたことを、今後の読書に生かす。
1	走れメロス（読）	抽象的な概念を表す語句が、作品に与える印象を考える。
2	構成や展開を工夫して書こう（書） 国語の学びを振り返ろう（話・聞）（書）	- これまでの学習を振り返り、文章の構成や展開について理解を深めるとともに、場面の展開が明確になるように、構成を工夫する。 - 構成や表現を工夫し、わかりやすく情報を伝える。
3	木（読）	抽象的な概念を表す言葉などに着目して詩を読む。

※書写は、国語科の授業の中で行われます。以下は、年間を通じた学習目標です。

- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。
- 目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書く。